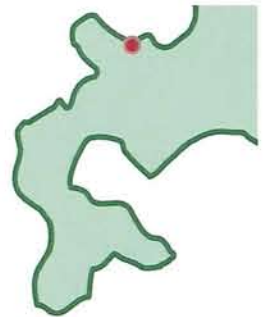


鳴海の全国ぶらり旅

小樽編



今回は北の旅情漂う港町、小樽にやってきました。昭和の大スター石原裕次郎の記念館や、北海道最大規模を誇る小樽水族館などの観光名所もさることながら、旅情たつぷりの独特の雰囲気は、訪れる人たちの心を掴んで離しません。

▼岩崎さんとミツバチの巣箱の前で。たくさんのミツバチが元気に飛び交っていました。



小樽には私たちがミツバチの生態研究など、日頃からお世話になっている岩崎みつばち園の代表、岩崎豊さんがいらつしゃいます。岩崎さんは高校卒業と同時に養蜂の世界に入り、もう30

▼イタドリの花。今の時期はこの花から越冬の蜜を集めてくるそうです。



年近くもミツバチと暮らしています。果物の産地で有名な余市町でさくらんぼなどの花粉勾配をしたことから始まり、今では小樽市内に3箇所巣箱を設置してはちみつ等を生産しているそうです。はちみつの生産現場を美味しそうだなー、と思



▲ミツバチを誘いにくるスズメバチを捕獲する罠。酒と砂糖、酢で作った液体にどんどん飛び込んでくるそうです。半径500メートル四方のスズメバチはいなくなるとのことでした。

ながら見ていたら、岩崎さんが私の視線とお腹の音に気付いたのか、絞られたのトチ蜜をくれました。香りといい、甘さといい、これはもう絶品でした。岩崎さん、どうもご馳走様でした。

▼祝津岬。赤岩を背景に。



「せっかく来たんだから景色の良い所に行きましょうよ。ご案内しますよ。」という岩崎さんのお言葉に甘えて向かった先は祝津岬という所でした。ここはロッククライミング(岩登り)の名所としても知られている所で、天気の良い日には、積丹岬が見えるそうです。赤岩からオタモイ海岸へと続くこの一帯は遊歩道で結ばれていて、200メートル以上ある断崖をくりぬいた散歩道は絶景です。岩崎さんご夫妻はおふたりで山登りという共通の趣味をお持ちになつているので、この岩にも挑戦したことがあるとの事。ここを登るとは相当な腕前だな、と感心してしまいました。

その後、

青山別邸へ
向かいました。

祝津の網元

として明治・

大正の時代

に鱧漁で大

富豪となつ

た青山家の

2代目政吉

氏が建てた

この別邸は

敷地1500坪、滝が流れ落ちる庭のついたお

屋敷は木造2階建てで、18もの部屋数がありま

す。新宿の伊勢丹デパートが50万円で建てられ

た当時、31万円もかけて作られたといいますが

ら驚きですよ。

著名な画家の描いた襖絵や屏風、骨董品など

も素晴らしいものばかりでしたが、山形県から

わざわざ運んできたというケヤキや、ヒノキ、

杉といった材料をふんだんに使ったつくりはま

さに美術豪邸と呼ぶにふさわしいものでした。

朝からの小雨もすっかり上がったところで、

小樽運河を散策しました。

全長1140メートルの運河沿いは、水辺に

親しめるように道路よりも一段低く散策路を

設けているので、とても歩きやすく、交通量の多



▲青山別邸

い道路に面し

ていながら、ほ

とんど車の騒

音も気になり

ませんでした。

運河とは反対

側にある堺町

通りにはガラ

ス工芸ショップ

や飲食店など

が建ち並び、運

河とのコント

ラストが小樽の街の雰囲気をつつそう盛り上げ

ているように感じました。



▲堺町通りの商店街

ほんと、ロマン

チックな街です

よねー。

実は今回の小

樽訪問で、必ず

寄りたい所があ

りました。

私の高校時代

からの親友、丸

ちゃんこと丸山

剛史君の実家です。

札幌光星高校時

代、2年間同じ

です。

▼お米の丸山商店。10年前とまったく変わらないおじさんとおばさんにびっくり。



クラスで過ごした彼とは卒業後も一緒に遊び歩
く(勉強も)機会が多く、当時は小樽の実家の方
にもちよくちよく邪魔してご飯をご馳走にな
ったものでした。というのも彼の实家はお米屋
さんで、しかも自家精米なので、とても美味し
く、何かと理由をつけてはしょっちゅう遊びに
行っていました。(その節は本当にお世話になり
ました。)約10年ぶりに突然お邪魔してしまっ
たのですが、おじさんもおばさんも全く変わら
なく、以前と変わらない元氣な姿に安心しまし
た。仕事の関係で剛史君には会えませんでした
が、相変わらず元氣で頑張っているということ
を聞いて、またひと安心。懐かしい思い出と共に
今回のぶらり旅を終えることが出来ました。

小樽岩崎みつばち園/小樽市塩谷1丁目2-3 TEL0134-26-0711
お米の丸山商店/小樽市入船1丁目8-13 TEL0134-33-6950